



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

| | |
|------------|---|
| Title | 初期合成染料が用いられた着物地の染料分析と染色堅牢性評価：学術的資料としての近代染織品の保存のために(審査結果の要旨) |
| Author(s) | 片淵, 奈美香 |
| Citation | |
| Issue Date | 2016-03-15 |
| URL | http://hdl.handle.net/2309/145694 |
| Publisher | |
| Rights | |

審査結果の要旨

(1) 研究の目的に意義や独創性があるか

本研究は、初期合成染料が用いられた明治時代の着物地を、服飾意匠が近代産業の発展に影響を受けた好例であり、服飾史・染織史だけでなく、技術史・産業史、科学史、技術教育史の観点からも重要な学術的資料であると位置づけ、博物館・美術館での保存に資する知見を得ることを目的としている。明治時代の着物地に代表される近代染織品については、文化財としての重要性に対する認識が近年ようやく高まりつつあるものの、適切な保存の指針を得るための研究はまだ緒についたばかりである。とくに、初期合成染料は鮮明な色調を特徴とする反面、保存や展示の際の環境要因に対して概して脆弱で、色調が損なわれやすいことが経験的にも知られている。こうした近代染織品の保存のための体系的な研究が必要とされている状況にあって、本研究の目的の意義は明確といえる。さらに本論文は、関連する研究領域においてこれまで個別に蓄積されてきた知見を統合したうえで、実物資料の科学的分析と文献資料による歴史的・文化的調査から構築される学際的なアプローチの方法、ならびに、博物館等で収蔵品の調査や保存に携わる学芸員の現状を踏まえた簡便で実用的な実験手法の提案を目的としており、これらのことがこれまでの研究にない独創的な点として評価できる。

(2) 研究の方法は当該学問分野において妥当なものか

本研究は、関連する諸分野を横断する学際的な性格を持つものであり、こうした総合的な研究手法は生活科学・家政学の特徴ともいえるべきものである。本研究の構成は、明治時代の着物地を実物資料とした2つの実験（染料を中心とする材質分析と、保存や展示の際の環境要因のうち、光が色調に及ぼす影響の評価）と、実験に先立つ資料の収集・選定のための文献調査から成る。これらの実験や調査の方法は、関連する染織品保存科学、服飾史・染織史、染色化学等の分野の先行研究を丹念に比較検討したうえで、本研究の目的に沿って適切に設計されており、得られた結果の信頼性を保証するものとなっている。

(3) 研究資料やデータの収集と分析が適切になされているか

文献資料については、染織品の保存や材質分析等に関する国内外の学術論文を広く調査し、研究の動向や課題を分析することにより、本研究の位置づけが明確にされている。また、実験に先立ち、明治時代に発行された染色技術書等を収集し、現在の科学的知見と照合しつつ読み解くことにより、試料選定や実験結果の考察の根拠が得られている。実験に供する実物資料については、明治時代の代表的な着物地の選定にあたり、丹念に文献調査や目視調査を行い、色調・図柄・織・染色技法等の多角的な検討にもとづく判断がなされている。実験データの収集と分析については、関連する研究領域で広く用いられている方法に則って適切に実施されている。本研究の目的と試料の特性に応じて、独自の工夫を加えたり新しい方法を導入したりした部分については、予備実験によりその妥当性や再現性の検討が十分になされている。得られた実験データは適切な方法により系統的に整理・分析され、そこから導き出された知見は的確で信頼できるものとなっている。

(4) 研究の考察と結論が妥当であり、学術的な水準に達しているか

第2章では、実物資料である明治時代の着物地、ならびに、染料分析の比較試料とする初期合成染料を選定するための文献調査を行った。国内外の学術論文、明治時代に発行された染色技術書等を広く調査した結果、本研究の目的に沿った重要な試料の選定に至っている。同時に、この調査を通して、明治時代の染織産業を背景とした当時の着物地の特徴や独自の価値が示されている。

第3章では、実物資料の染料分析のために、実用的で簡便な複数の破壊・非破壊分析を組み合わせた染料分析フローチャートを構築した。分析の結果、明治時代の着物地からは、現在では用いられない脆弱な初期合成染料が多数見出され、当時の染色技術が実物資料において確認されたこと、色調保持のために必要な配慮について示されたことは、きわめて有用な知見といえる。

第4章では、実物資料を対象に露光試験を行い、光が色調に及ぼす影響を検討した。複雑な多色柄という着物地の特性を踏まえて、評価には迅速で簡便な色彩画像解析を導入した。実験結果より、着物地に生じる変退色の程度や挙動は、染料の種類や染色技法によって大きく異なることが示された。これは、実物資料を露光試験に供することで得られた重要な新しい知見であり、着物地の保存における課題を明らかにしたといえる。

第3章の成果の一部をまとめた2報の論文は、日本衣服学会誌に掲載されて高い評価を受け、平成27年度日本衣服学会奨励賞を受賞したことから、高い学術的水準にあることがわかる。第4章の成果の一部についても、平成26年度日本衣服学会大会において口頭発表を行い、緻密な実験を積み上げて有用な知見を得たことが評価され、発表優秀賞を受賞している。

(5) 取得学位にふさわしい意義や成果が認められるか

本論文は、近代染織品とくに明治時代の着物地を学術的資料と位置づけ、博物館等での保存に資する有用な知見を得ると共に、目的に沿った新しい研究手法を構築したものであり、染織品保存科学、服飾史・染織史、染色化学の諸分野を横断する学際的な研究として高く評価できる。とくに、博物館等での収蔵品の調査を想定した簡便で実用的な実験手法を提案したことにより、今後の展開として、科学的側面からの学芸員の専門性の向上に寄与することが期待される。

以上のことから、審査委員会は全員一致で、本論文は学位論文審査基準の5項目を満たしており、本論文の目的・意義・成果より、博士(学術)の学位を授与する論文に値すると判断した。